第11回 わくわく文庫読書感想文コンクール

開催報告書

2022年10月 5日（水） 入選者発表

2022年10月16日（日） 授賞式（最終結果発表）

主催 株式会社日本コスモトピア

第11回
わくわく文庫読書感想文コンクール授賞式

本コンクールは、日本コスモトピア企画・制作の読書支援教材『わくわく文庫』を通じて学習塾で日々読書に励む子どもたちが、その成果を発揮できる機会として毎年開催しており、今年で11年目となります。読書の楽しさ、素晴らしさを改めて知ることで、より豊かな人間性を育むとともに、読書推進のきっかけとなることを目的としています。課題図書を決めず自由に本を選んでもらうことにより、自主性を大切にしています。

本年は株式会社日本コスモトピア40周年を記念いたしまして、従来の感想文に加え、感想画部門の募集をいたしました。読書の感想を、文章だけでなく絵画など好きな方法で表現していただきたいとの思いからです。子どもたちがのびのびと自由に感性の羽を広げて羽ばたいてくれることを期待しています。

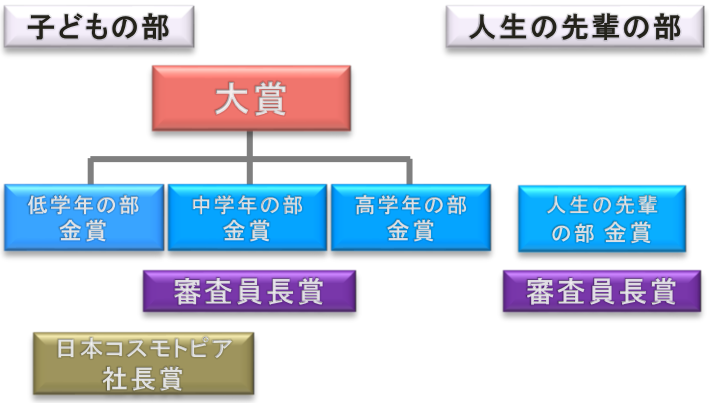
今年度は感想文部門に460作品、感想画部門に158作品、合計618作品のご応募をいただきました。毎年、深い理解や豊かな表現力の作品に加え、感性豊かでユニークな作品も多数寄せられています。今回は感染症防止対策のためオンラインでの授賞式開催となり、2日間にわたって入選・入賞作品の発表及び表彰を行いました。

■わくわく文庫とは？

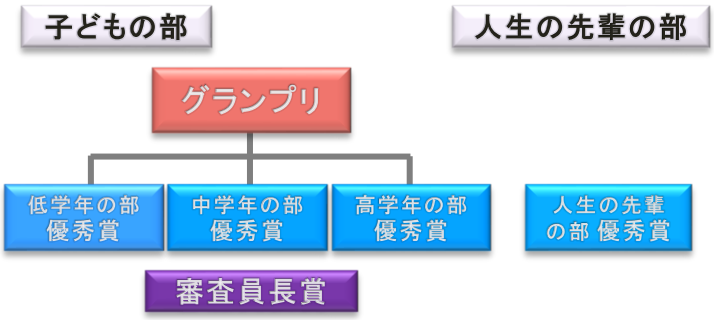
プロのナレーターによる朗読を耳で聴きながら、実際の書籍の活字を目で追って本を読むという読書支援システムです。目と耳の両方からストーリーを受け取ることによって、本を読むことに集中し、物語の内容を深く理解できるようになります。現在は主に、学習塾や生涯学習教室でご利用いただいております。

わくわく文庫読書感想文コンクール　各賞構成図

■感想文部門



■感想画部門



今回感想文部門、感想画部門とも、優れた作品が非常に多く、審査がいつにも増して困難を極めました。
子どもたちの力作を前にして、審査員は何度も何度も話し合いを重ねました。入選には及びませんでしたが、これからも引き続き頑張ってほしいという思いで47名の方を「ネクストブレイク賞」として選出いたしました。
社内審査員より、お一人おひとりに応援の言葉を講評として贈らせていただきます。

本年度の審査員長のご紹介

1962年、岡山市生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科卒業。大学病院秘書課勤務後、1988年「揚羽蝶が壊れる時」で海燕新人文学賞を受賞してデビュー。1991年、「妊娠カレンダー」で第104回芥川賞受賞。以降、主な著書は「薬指の標本」、「密やかな結晶」、「アンネ・フランクの記憶」、「博士の愛した数式」、「ミーナの行進」、「ブラフマンの埋葬」、「ことり」、「小箱」など。最新刊は「掌に眠る舞台」（集英社/2022年9月刊行）。

感想文部門 審査員長
小川 洋子氏

<小川洋子先生からのメッセージ>
はじめまして。作家の小川洋子です。
今は、一瞬にして世界中の人々とつながり合える時代です。そんな中、読書とは何と静かな行為でしょうか。本の中に生きる人と自分、一対一の会話です。誰もそれを邪魔できません。本のページをめくるたび、そこで繰り広げられる世界を味わうのと同時に、自分の心の奥底を旅することになります。それまで知らなかった自分と出会えます。だからこそ読書は素晴らしいのだと思います。
皆さんが本と交わした秘密のやり取りを、そっと教えてくれませんか。とても面白かった、楽しかった、悲しかった、怖かった、という一言では済ませられない気持ちを表現するのは、難しいことですが、本を閉じたあと、心の中に何が残っているか見つめているうち、きっと自分だけの言葉が発見できるでしょう。楽しみにお待ちしています。

感想画部門 審査員長
大野 八生氏

1969年、千葉県生まれ。造園家・イラストレーター。
子どもの頃から、園芸好きの祖父とともに植物に親しむ。造園会社の仕事などを経て、現在イラストレーター、造園家として活動。
著書に「ハーブを楽しむ絵本」「盆栽えほん」「日本庭園を楽しむ絵本」（あすなろ書房）、「にわのともだち」（偕成社）、「庭のたからもの」（小学館）、「夏のクリスマスローズ」（アートン）、「みんなの園芸店」（福音館書店）など。
挿絵、挿画を手がけた本に「かえるのめだま」（福音館書店）、「春のかぞえかた」（新潮社）、「4ミリ同盟」（福音館書店）、「牧野富太郎ものがたり草木とみた夢」（出版ワークス）など。光村図書の小学校国語教科書、せいかつ教科書の表紙画も手がける。

<大野八生先生からのメッセージ>
ー心の中の絵を描こうー
本を読むことは、いつもと違う自分の心の扉を開くような気がします。
同じ本を読んでも、皆それぞれに、思ったり感じることが違い、とても面白いものです。
100人の人がいたら100通りの世界が見えてくると思います。
本を読むと、いつでも、どこでも、何にでもなれ、どこへでも行けるのです。心がわくわくします。そんなふうに、心の中で感じたことや思ったことを絵にしてみませんか？
絵は、もっと自由な世界です。読んだままの風景を描いてもよいし、好きな場面を絵にしても素敵です。
又、心で感じたことを思いっきり、自由な色と形や線で表しても楽しいと思います。本の中の、かたちのない世界をスケッチブックの上に描いてみてください。もしかすると、あなたが描いた絵をまた別の人が見て、「この本が読んでみたいな」と思ってくれたなら、それはとてもうれしいことですね。
たくさん本を読むと心の中にいろいろな世界ができ、とても豊かな気持ちになれるのです。

プレゼンターのご紹介

石原侑美氏

フィンランド生涯教育研究家。国際関係学の見地からフィンランドの教育文化について研究。
日本国内で、キャリア教育や生き方デザインに関する講演、講座、授業を学校、自治体、企業、オンラインサロンで実施。教育のつながりで日本コスモトピアとのコラボレーション多数。
Elämäプロジェクト代表、株式会社Live Innovation代表取締役、岐阜県子育て支援員

審査員長　小川洋子先生と大野八生先生との対談

毎年、作家・絵本作家の方々に審査をお願いしています。今年は、感想文部門に作家 小川洋子先生と感想画部門にイラストレーター・造園家 大野八生先生をお迎えいたしました。
お二人の先生と、弊社代表下向峰子との対談を行いました。あらかじめ参加者から「先生に聞いてみたいこと」を募集し、その質問をきっかけに展開する形で始まりました。

―下向社長（以下：下向）「白黒は得意なんですが色塗りも上手になりたいのでコツを教えてください（りょうたさんより）」
大野八生先生（以下：大野）「鉛筆やボールペンなど白黒だけで描くのも楽しさがあります。毎日生活している中で、街にはたくさんの色があふれていますので、好きな色を発見することで楽しく描くことができます。『このお花の色きれいだな』『季節によって色があるな』などと考えたり、音楽などを聴いて『心で感じた色』も大切にしています」

―下向 「作品を制作されるときに必ずされることはありますか？（おはなし大好きさんより）」
小川洋子先生（以下：小川）「そういう習慣はないんです。余計なことは考えず、とにかく書き始める。疲れてくると腹筋運動をしたり…。 儀式をしないようにしています。その世界に集中しないとできないのでいかに集中力を保つかということが大事です。集中力が切れた時、空っぽになった時にまたアイディアが浮かんでくる。また集中の時間に戻る。空っぽにするのは今の時代難しい。子どもが無心に遊んでいる姿を見るとこちらまで心が洗われますよね」

―下向 「制作段階は計画的ですか、それとも何か降りてくるようなことがありますか？（下向社長より）」
小川 「私は割合行き当たりばったりです。自分が思いもしなかったところへ行けるとき、想像力を超えているので喜びが大きいんです。自分が書いたのではないような、 偶然が私に作品を書かせたように思える時、充実感があります。作品そのものが持っている生命力がある」
大野 「無心になるというお話がありましたが、私は造園家として１日作業をして無心になる時間があり、いったん０（ゼロ）になるんです。そしてまた違う日に制作をするようにしています。自分の中から出てくるものは限られるんですが、他の方の作品に絵を描かせていただく時には、いつもの私とは違う何かが出てくるので、そういうお仕事が好きなんです。植物とのふれあいや庭のお仕事もしながら、絵のお仕事もさせていただいています」

―下向 「お二人に共通しているのは ０（ゼロ） になるという時間を大切にされていることですね。
小川先生の作品の発想には驚かされます。最初の発想はどのように？」
小川 「小説の種との出会いは偶然が多いんです。電車の中で小耳にはさんだ話や、歩いていてたまたま目にしたものに引き寄せられ、これを小説にしてみたいなと。そういう出会いをいつも待っているんです。どこに落ちているかわからない（笑）。最初に書きたいと思ったこととは、できた作品はまったく違うものになっていることが多い。到達点は遥か彼方なんです」

普段聞くことのできない制作段階のお話は非常に興味深く、もっといろいろなエピソードが聞きたいと思っているところで残念ながらタイムリミットが来てしまいました。この後、それぞれの賞状授与の際にもご登場いただきお話を聞くことができました。

日本コスモトピア社長賞　賞状授与

日本コスモトピア社長賞、受賞者へ賞状授与を行いました。社長賞は、入選には届かなかったものの「独創性を大事にする」「ユニークを育てる」にフォーカスを当てた、感性がキラリと光る作品に贈られます。今回は6名が受賞し、賞状授与には5名の受賞者がご参加くださいました。未来への可能性を感じられる、そんな素敵な作品と受賞者たちです。

日本コスモトピア社長賞

小林 瑞幸さん （小学1年） 書籍名「だんごどっこいしょ」

小林さんは、主人公のぐつに
「名前を忘れないおまじないを教えてあげる」と、とてもやさしさが溢れる感想文を書いてくれました。
授賞式では「本を読むのが大好き」と笑顔で話してくれました。

角田 涼香さん （小学2年） 書籍名「くすのきだんちへおひっこし」

角田さんがこの本を選んだ理由は、
「みんなが助け合ったりするところが面白かったから」
「普段の生活でも困っている人がいたらリードして助けてあげてね」と言われ「はい」と、はつらつとした表情で答えてくれました。

國友 希穂さん （小学3年） 書籍名「シマフクロウのぽこ」

國友さんは、シマフクロウについて分からないことをお父さんに聞いたこと、いつも楽しく話していることを教えてくれました。
また、この本を読んで「シマフクロウは守り神になってくれると書いていたので、みんなにも好きになって欲しい」とにっこり答えてくれました。

阿久津 紗恵さん （小学6年） 書籍名「ほんとうの空色」

阿久津さんは、タイトルを見たときに「どういうことだろう？」と思ったこと、読み進めながら、疑問に思ったことを考えているうちに、本の文字には現れていない行間の部分に秘められた想いに気づいたことを話されました。

風間 陸さん （小学6年） 書籍名「水滸伝」

水滸伝という難書で感想文に挑んだ風間さん。「この本を読んで、まず最初にどんなことを感じましたか？」と聞かれ「昔と現代とは違うところ、現実ではないところが面白かったです」と教えてくれました。「全ての巻を読破してくださいね」と言うと「はい」と素敵な笑顔で返事をしてくれました。

石垣 愛翔さん （小学6年） 書籍名「空気がなくなる日」

「サブタイトルに『一生の思い出』と名づけられている。人間の感覚を忘れたくないから、最後に友達との思い出をつくりたい、とご自身の今の現状をとらえながら感想文を書いてくださいました」と、下向社長より講評を贈らせていただきました。

これからも楽しく読書を続けながら、自由に表現してくださることを期待しています！

感想画部門・結果発表　大野八生先生からの賞状授与とご講評

感想画部門の最終結果発表。大野八生先生から賞状の授与、受賞者に向けてご講評をいただきました。
画面越しではありますが、先生から直接感想画の講評をいただく子どもたちはとても嬉しそうな表情をしていました。

感想画部門　グランプリ

興野　悠太さん（小学2年）
タイトル「ライオンが火の輪をくぐっているところ」　書籍名「サーカスのライオン」
栄えある感想画部門グランプリを受賞されました興野さん。
作品を見たときに「私の気持ちの中にぐっと入ってきた」とおっしゃる大野先生。
「この作品の中で工夫したところは？」と聞かれると「火の輪を工夫して描きました」という興野さん。白い紙の背景を「火は黄色っぽい色だから」と丁寧に黄色に塗られている興野さんの作品は、見ている私たちの心にも強烈に焼きつきます。大野先生は「物語に出てきた絵に似せて描いてしまいがちだが、それがなく独自の絵ができている、ライオンが生きている感じがする」と絶賛されました。

感想画部門　グランプリ作品

タイトル：ライオンが火の輪をくぐっているところ　書籍名：サーカスのライオン　　興野　悠太（小学2年・埼玉県）

感想画部門　審査員長賞

髙倉　結菜さん（小学1年）
タイトル「あしたもあそぼうね」　書籍名「あしたもあそぼうね」
大野先生「心惹かれた作品で、どうしても審査員長賞に入れたかった」とおっしゃった髙倉さんの絵は、元気いっぱい、色にインパクトがあり、心に訴えてくる作品です。審査員長賞を受賞した今の気持ちは？の質問に「嬉しい！」と笑顔で答えてくれました。

石川　葵葉さん（小学3年）
タイトル「月までとんでいくゲオルグとテントウ虫」　書籍名「森のゲオルグ」
この作品のどんなところが好き？という質問に、「ゲオルグは、みんなよりはねが生えていなかったけれど、生えてたらどうだったかと想像しました」と答えてくれた石川さん。
大野先生は「カラフルな色で作品をつくるのは難しいけど、取り入れ方がとても上手い」とおっしゃってくださいました。

感想画部門 低学年の部 優秀賞

中村 咲良さん（小学2年）

タイトル「なし見一つけた。」 書籍名「大あばれ山賊小太郎」

たくさん絵具で「点々」と色をのせて描いている中村さんの作品。
「タイトルの付け方も面白いし、なしやくりの描き方がとても独特で良いな」と大野先生。中村さんがこの絵の中で気に入っているのは「色」と、にっこり微笑みながら答えてくれました。
茶色といっても、いろんな茶色があり、これだけたくさんの色をつくっているのが素晴らしいと大野先生よりメッセージをいただきました。

感想画部門 中学年の部 優秀賞

髙橋 杏さん（小学4年）

タイトル「 しんちゃんとカモメ」 書籍名「あいつのおしろ（わらいうさぎより）」

「砂浜をカラフルに点々と色付けしたところが、この作品の好きなところです」と、ハキハキ答える髙橋さん。
大野先生「原画を見たとき、細かく丁寧に、砂浜や海を描いているのに気付きました。質感と筆の勢いが見事。額に飾りたい」とおっしゃってくださいました。

感想画部門 高学年の部 優秀賞

眞榮里 結愛さん（小学6年）

タイトル「モミイチと今まででてきてくれたみんな」 書籍名「星の牧場」

眞榮里さんは「天の川を綺麗に描くよう、心がけました」と笑顔で答えてくれました。
「色の混ぜ方が素敵。一生懸命、色を拾っている感じの描き方が良い。たくさん綺麗な夜空や、緑を見ているからこそかける絵なのかなと思いました」と大野先生からお言葉をいただきました。

感想画部門 人生の先輩の部 優秀賞

柄本 めぐみさん

タイトル「出会いに乾杯!」 書籍名「チュウリップの幻術」

大野先生「丁寧で、子どもの気持ちを忘れていない、自由な感じがとても良いです。絵の中にたくさんの小さな光がちりばめられて入っている。お会い出来たら、どうやって描いているか伺いたい。2人の手からあふれる友情・楽しんでいる空気感が伝わってくる素晴らしい作品です」

感想画部門 大野八生先生からのメッセージ

絵はとても自由なものです。
描き続けると良いな、好きだなと思える絵が描けるようになります。
また、自分が変かなと思っても、他の人に見せるとその部分が良いと言われたり、人によっていろんな見方ができるのが絵の不思議なところです。
みなさんが、1年生、2年生、3年生、、、と育っていくように、絵も必ず育っていく。
すぐには見えないかもしれないけれど、描き続けることが大切です。それは、子どもも大人も、私のように絵を仕事にしているものも同じです。その時、絵が思い通りに描けなくても何枚も描いてゆくうちに、振り向くと自分だけの味<個性>が出てくるものです。絵は、うまい下手ということは全くなく、この<味>がとても大切だと思います。自分で描いたもの、作ったものは世界にひとつだけなのです。

絵に限らず、好きなこと、好きなものをとことん好きになってください。子どもの頃好きだったことは、必ず大人になった自分の味方になってくると思います。
たくさんの素晴らしい作品を拝見させていただいて、本当にどうもありがとうございました。

感想文部門・結果発表　小川洋子先生からの賞状授与とご講評

最後に、感想文部門の最終結果発表をいたしました。小川洋子先生から、賞状授与、講評をお伝えいただきました。小川先生が受賞者お一人おひとりに子どもの目線に立って優しく話しかけられている姿が印象的でした。

感想文部門　大賞

藤井　新大さん　（小学１年）　書籍名「うきわねこ」

「“うちゅうのうみは、ながれぼしがちかくにみえるかな”　何て素敵な想像でしょう。手をのばせば、流れ星に触れることができるかもしれませんね。もう一つ好きなのは、おじいちゃんと二人きりの秘密がほしい、という一行です。大好きなおじいちゃんへの思いが、この一行に詰まっています。一行の中からあふれ出てきそうです」

「ほんとうはできないけれど、本の中だったらできるかもしれないという想像をこれからも育てていってほしいです」と語りかける小川先生に、藤井さんは元気よく「わかりました！」と答えていました。小川先生のコンクール総評を聞いた後、本人による作品朗読が行われました。本を読んで感じたことと自分の家族の関係とを絡め、素直な気持ちがあふれている素晴らしい感想文でした。感情をこめてしっかり朗読できましたね。

このコンクールでは、これまで高学年の方が大賞を受賞されたことが多かったのですが、初めて小学１年生の方が大賞を受賞されました。今後も本を通じての対話を大事にして読書を続けていってください。

感想文部門　大賞作品

「うきわねこ」

藤井 新大（小学1年・愛知県）

ぼくのおじいちゃんはつりがとくいです。おじいちゃんのところにあそびにいくと、いつもつりたてのさかなをたべさせてくれます。おにいちゃんはおじいちゃんにつりにつれていってもらいます。ぼくはまだちいさいのでつれていってもらえません。ぼくはおにいちゃんがうらやましいです。

えびおは、たんじょうびにおじいちゃんからふしぎなうきわをもらいます。おじいちゃんのおてがみに、まんげつのよるをたのしみにしていてね、といわれました。えびおはまちどおしくてしかたありません。ぼくは、おじいちゃんとえびおがたのしそうにそらをとんでいるばめんがすきです。

「ぼくもつれていってよ。」

おもわずさけびました。そらのうえにうみがあるなんてしんじられない！でも、ぼくとおじいちゃんがもしいちどだけひみつのたびにいけたら、うきわにのってうちゅうまでいってみたいです。

うちゅうのうみは、ながれぼしがちかくにみえるかな。ほしがたのさかながいるかな。ぼくもえびおみたいにおじいちゃんとふたりきりのひみつがほしいな。うちゅうからねているおにいちゃんにむかって、

「うちゅうのうみでつりしてるよー。」

ってさけぶけど、おにいちゃんにはきっときこえないだろうな！

感想文部門 子どもの部 審査員長賞

吉見 まりなさん（小学6年） 書籍名「オズの魔法使い」
「私も大好きなお話です。登場人物の気持ちが丁寧に描かれていて感心しました。魔女があっさりやられてしまい、がっかりしましたね。一番好きな登場人物は？」小川先生の声かけに、吉見さんは「一番好きなのはやはり主人公のドロシーです」とハキハキと答えていました。

感想文部門 人生の先輩の部 審査員長賞

武市 佐和子さん 書籍名「宝島」
小川先生「登場人物たちの欠点を容赦なく暴きながら、時には無事を祈り、時には憎みきれないいじらしさを感じたりします。現実的な価値観から自由になったのびやかさが、独特のユーモアを生み、忘れ難い印象を残します。武市さんの個性をどうぞ大事にしてください」

感想文部門 低学年の部 金賞

安田 結香さん（年長） 書籍名「くすのきだんちへおひっこし」
小川先生「自分が犬にかまれた怖い体験が活かされていて登場人物に共感する気持ちが出ていてとても良かったです。これを励みに頑張ってください」他にも好きな本がたくさんという安田さん、これからもいろいろな本に出会えるといいですね。

感想文部門 中学年の部 金賞

吉川 遥人さん（小学4年） 書籍名「アインシュタイン」
小川先生「たとえ言葉だけであっても、相対性理論を知っているなんて、驚きました。“なぜなぜぼうや”という共通点が面白いですね。その共通点を発見し、いくら天才であっても同じ人間なんだ、と気づくところが印象的でした」

感想文部門 高学年の部 金賞

守屋 昌紀さん（小学6年） 書籍名「<自分らしさ>って何だろう？」
小川先生「今は、自分とは何なんだろう？という答えの出ない問題に突き当たり悩む時期だと思います。しかし冷静に深く自分自身について考えを巡らせていて感心しました」将来の夢は？と聞かれた守屋さん、しっかりと「薬剤師になることです」と答えていました。これからも夢に向かって頑張ってください。

感想文部門 人生の先輩の部 金賞

中島 菜々子さん 書籍名「博士の愛した数式」
小川先生「中島さんは、博士にとって数学がどんなに偉大な存在であるか、深く読み取っていました。また、宇宙の摂理を読み取ろうとする博士の謙虚さが、他者への優しさにつながっていることも、理解していました。読者にこれほど温かく接してもらえた博士は幸せです。きっとページの向こうから、友愛の気持ちを送っていることでしょう。登場人物と読者が交流しているかのような、まさに読書の神髄を感じさせてくれる感想文です。作者としても、お礼を申し上げます」

感想文部門 小川洋子先生からのメッセージ

今回、審査に参加して最もうれしかったのは、皆さんが心から本を楽しんで読んでいる、というのが伝わってきたことです。
ページをめくっている時間がどれほど豊かなものであったか、よく分かりました。
感想文はどれも個性豊かで、書いてくれた人たちの顔が浮かんでくるようでした。誰もが皆、原稿用紙の上で自由に自分を表現してくれました。その伸びやかさのおかげで、私まで一緒に本を読んだかのような喜びを感じました。
やはり、本は人と人とをつなぐのだ。改めてそんなふうに感じさせてくれたのは、感想文を書いて下さった皆さんのおかげです。
ありがとうございました。
どうかこれからもずっと本が、皆さんの人生に寄り添い続けてくれますように。そして、慰めや喜びや神秘や勇気を与えてくれる友人となってくれますように。そう、心から願っています。本はいつでも、いつまででも辛抱強く、あなたと出会えるのを待っています。

ルーム・トゥ・リード と 日本コスモトピア の活動について

日本コスモトピアは「わくわく文庫」を通して認定NPO法人ルーム・トゥ・リード・ジャパンと連携しています。「わくわく文庫」で本を読むと日本コスモトピアから『ルーム・トゥ・リード』を通して、歴史的に低所得地域に住む世界中の子どもたちへ本が届きます。日本の子どもたちだけでなく、世界中の子どもたちも“わくわく”する読書体験ができるように、そしてまた、私たちの活動が日本と世界の架け橋となることを願っています。

ルーム・トゥ・リードとは

事務局
徳松愛さん

ルーム・トゥ・リードは、"子どもの教育が世界を変える"との信念に基づき2000年に設立され、非識字や男女間の不平等のない世界を実現するために活動しています。現在までに、21カ国、49,000以上のコミュニティで3,200万人以上の子どもを支援し、2025年までに4,000万人の支援を目標としています。
今回、日本の窓口である認定NPO法人ルーム・トゥ・リード・ジャパンの事務局 徳松愛さんにご出演いただき、お話をお伺いしました。

2021年度の支援報告

今回の支援は、電子書籍（リテラシークラウド）内の児童書になりました。
リテラシークラウドのウェブサイトは23言語で運営され、143カ国のユーザーがいます。
使用言語は32言語。わくわく文庫での読書がインド（ヒンディー語）の絵本になりました。

タイトル　「ぼくはひとりぼっち？」
ストーリー　『小さな芽』はいつも自分はひとりぼっちで、悲しく感じています。でも本当？
『小さな芽』が本当にひとりぼっちなのか、さぐってみましょう！

「ぼくはひとりぼっち？」の物語を徳松様が読んでくださいました。また、ルーム・トゥ・リード・インドの事務局　サマン氏より届いた、コロナ禍で学校に通えなくなった5年生の女の子がリテラシークラウドを使用して、自宅で学習環境が整い、学びを継続できたという感謝のお手紙をご紹介してくださいました。

「ぼくはひとりぼっち？」
の絵本はこちら▼

わくわく文庫で本を読んだ子どもたちは、自分の学びが世界の子どもたちの学びに繋がっていることに刺激を受け、更に読書に励んでいるそうです。日本では当たり前に教育を受け、好きな本を読むことができる。でも世界では教育を受けられない子どももいる。今後も読書を通じて世界との架け橋になること、他者への理解を育む機会になることを願い、支援を続けてまいります。

日本コスモトピア からのお知らせ

「わくわく文庫 読書感想文コンクール」Webサイトのご紹介

2012年から始まった「わくわく文庫読書感想文コンクール」の概要やコンクールの軌跡、受賞作品をご覧いただけます。

コンクールの軌跡

審査員長の先生方からのメッセージ

受賞作品の閲覧

授賞式や朗読動画の視聴

※受賞作品の閲覧、授賞式や朗読の動画視聴には、生徒さんのお名前を掲載している為、【会員登録】をお願いしています。

わくわく文庫SNSのご紹介

わくわく文庫は、公式のTwitterとInstagramを日々更新しております。
わくわく文庫の情報やご利用いただいている教室・生徒様からのお声などを随時お届けしていきます。

わくわく文庫 公式Twitter
https://twitter.com/waku2book

わくわく文庫 公式Instagram
https://www.instagram.com/wakuwakubunko/

「中の人」メンバーが毎日頭を捻ったり
他部署に良いネタはないか聞きに行ったりしながら
頑張って更新していますのでぜひ応援してください！

フォロー・いいね
お待ちしております！

株式会社
日本コスモトピア

≪大阪本社≫
〒532-0011
大阪市淀川区西中島4-9-28 TAIYOセンタービル
TEL:06-6390-2100 FAX:06-6390-3678
https://www.cosmotopia.co.jp/

≪東京オフィス≫
〒100-0006
東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館6F
goodoffice有楽町

今回選ばれた感想文・
感想画の作品はこちらから
閲覧していただけます

わくわく文庫読書感想文コンクール公式サイト
https://waku2kansoubun.cosmotopia.co.jp/

わくわく文庫読書感想文コンクール　で検索

©2022 株式会社日本コスモトピア